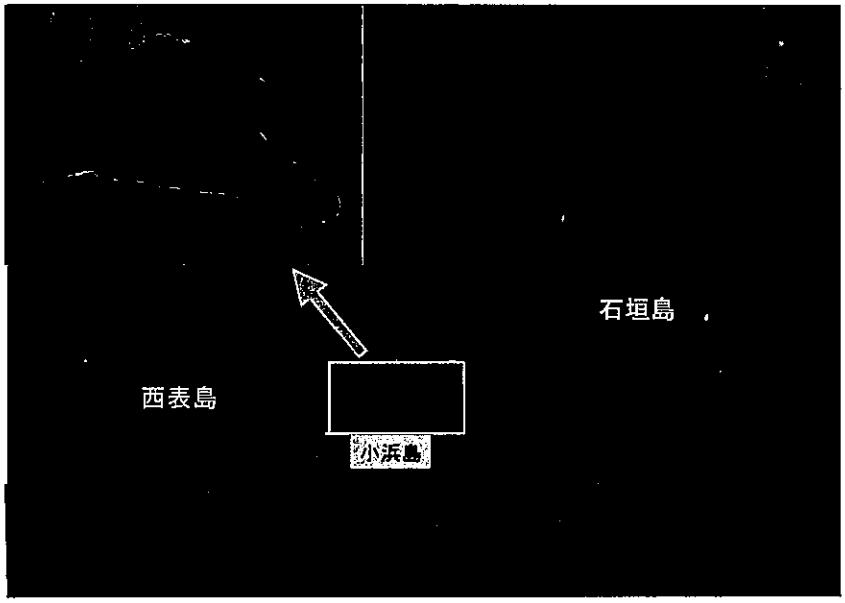
－沖縄県－

活かそう、守ろう、海人の宝

－小浜島細崎（クバザキ）漁業集落活性化への取り組み－

八重山漁業協同組合
細崎ま～る新鮮隊副隊長　大城洋一

1．地域の概要



沖縄県八重山郡竹富町に属する小浜島は、八重山諸島の中央部、石垣島と西表島との間、東経 124 度、北緯 24 度 20 分の地点に位置しており、西表島との間にはヨナラ水道が横たわる。現在の世帯数は 325 戸、人口は約 600 名で、観光業の発展と共に近年青年層の人口が増えつつある。平成 12 年に NHK 連続テレビドラマの舞台になったこともあり、小浜島に訪れる年間観光客数が 15 万人以上という、八重山でも有数のリゾート地となっている。石垣島と小浜島を結ぶ定期船は観光会社 3 業者で 1 日 32 往復している。主な産業は農業、畜産業、漁業、観光サービス業となっている。小浜島の周囲には重要な歴史的遺産として、痕跡も含めて 30 近くの魚垣（石干見）が存在し、今後、観光業との組み合わせによる里海形成のために機能する可能性を秘めている。

2．漁業の概要

小浜島には中央部に本村、南西部に細崎という２集落がある。後者の細崎は明治以降、糸満系漁民の移住によって形成された漁村で、現在約 20 名の漁業者が定置網漁、刺網漁、カゴ網漁、潜水器漁業、モズク養殖、採介藻を行っている。同地域はかつては漁業集落として発展したが、時代や環境の変化と共に漁業のみで生計を立てることが困難になり、漁業者の多くが高齢化し、後継者が極めて少ないのが現状である。

３．研究グループの組織と運営

平成 21 年度より、地元漁業の活性化と元気な漁村を取り戻すことを目標に、細崎の漁業者を中心とした「細崎ま～る新鮮隊」という漁業者中心の組織を結成した。「ま～る」とは沖縄方言のゆいま～る（つながり、協力の意）からきている。隊員数は活動に協力していただいている漁協等の担当者も合わせて現在 18 名となっている。平成 21 年度より国の補助事業である「活力ある漁村づくりモデル育成事業」により運営しており、主に加工用機材の整備と加工技術開発、地域イベントでの加工品の試作販売、県内外の先進地視察、ブルーツーリズムや体験漁業によるモニターツアー、育てる漁業の新たな創出に向けた研修、勉強会、ブログやインターネットを利用した情報発信といった取り組みを行っている。

４．研究・実践活動取組課題選定の動機

細崎集落における漁業実態のひとつとして、夏場の需要のある時期に漁獲が少なく安定的な供給ができない、逆に、大量に水揚げされた時は加工手段が無く、安値で島外へ出荷するため儲けが少ない、地元の細崎漁港には小規模の荷捌き場と冷蔵冷凍庫があるものの、衛生的な加工場が無く鮮魚での販売しかできない、島内のリゾートホテルとの取引が少ない、また、刺身や半身などの製品需要にうまく対応できていないといった問題を抱えている。このため、多数の観光客が島に訪れるにもかかわらず、販売する商品が無く機会を逃しているのが現状である。このため、以下の取り組みが急務となっている。

①水揚げされた水産物を保管する冷蔵庫、冷凍庫等の設備を充実させ、安定した水産物の供給体制を整備する。

②一時加工（解体）や二次加工（製品開発）を行い、多様なニーズに対応した商品作りを行う。

③水産物に付加価値を付けて販売することで少ない漁獲量でも利益を得るよう工夫する。

④地元販売を拡大し、地産地消による利益増大を目指す。

⑤新たな雇用を生むための事業を実施し、後継者を育成する。

５．研究・実践活動状況及び成果

平成 21 年度にはミンチ機やフライヤー、温蔵庫等の整備と加工品開発の取り組みを主に行った。細崎ではオジサンやヒチュー、チヌマン等の安価なために島外で販売しても利益の出ないような地魚が時期によりまとまって水揚げされる。こうした魚を原料とし、加工機材を用いて、地元で「たらしあげ」と呼ばれる揚げかまぼこをつくり、石垣市の産業祭りで出店販売したところ好評を得た。

平成 22 年～23 年度には主に漁業体験学習をプログラムし、地元住民や学校、観光客を対象に、グルクン釣り、シュノーケリング、タコ取り、漁具や漁法・漁獲物の紹介、たらしあげ作りなどを体験してもらうモニタリング調査を行っている。この中で、アンケート調査により意見を収集し、地元漁業への理解を深めていただくとともに、今後の活動の参考とした。これにより、細崎の漁業者独自で、島内観光客、地元地域住民を対象とした事業について可能性が生まれた。現在は島内の大型リゾートホテル側と話し合いながら、海人体験等のツアーメニューの開発ができないか、検討を進めているところである。また、新たな作り育てる漁業への取り組みとして、水産海洋研究センター石垣支所の担当研究員に

よりシャコガイ養殖の観光利用について講義していただき、県普及指導員の指導の下、ヒメジャコの放流に取り組んだ。この他、他の都道府県等の先進地視察を行い今後の活動に生かせないか、勉強している。

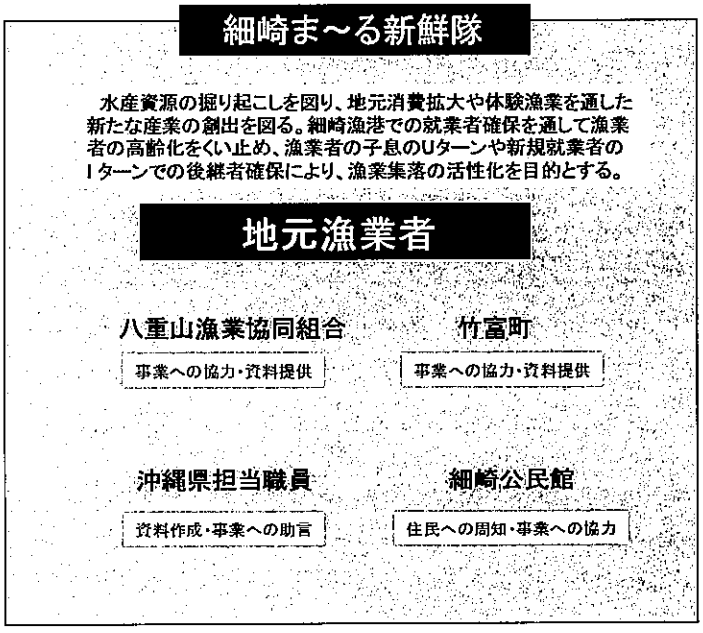
情報発信の取り組みとして、ま～る新鮮隊の活動について現在ブログを開設し、紹介している。今後さらに情報発信と知名度アップを目指し、ホームページの開設に向け取り組んでいる。

6．波及効果

多くの漁村において細崎と同様な問題をかかえていると思われる。従来の漁業のみでは漁家経営の安定が難しいが、これに加えて漁業者の持つ技術や地域資源を生かし、観光漁業につなげることで各漁家における経営の手助けになり、さらに漁村活性化と後継者育成に繋がるものと思われる。今後、ま～る新鮮隊としての活動の拠点を設け、漁業体験やブルーツーリズム、加工販売等が一つの観光業として成り立ち、自立運営してゆけるようになることで、今後、各離島での漁村活性化のための好事例になればと考えている。

7．今後の課題や計画と問題点

今後の課題としては、安定供給可能な加工品の開発と地元住民や観光客への販売促進、漁業体験のメニューの充実と活動拠点も含めた営業体制の確立、事務局の設置、地元観光ホテルとのタイアップによる需要への対応、水産物保管ならびに加工販売施設の整備を行っていく必要があり、これらにむけてま～る新鮮隊のメンバーは意欲的に取り組んでいる。この活動を通し、ま～る新鮮隊の中で「地産地消を進めていくには漁業を通して人と人とのつながりが強く結ばれることが大事である」と感じられるようになった。これを常に心におきながら地域に密着した漁業活動を構築していくことが、これからの離島ならではの漁村活性化にとっては必要と考えられる。



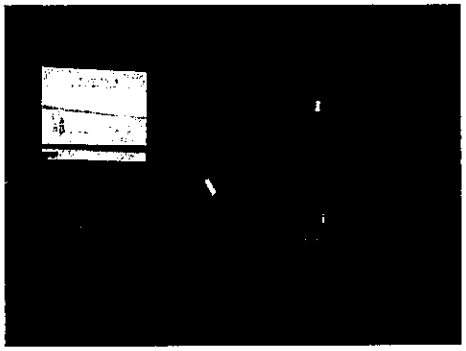
細崎ま～る新鮮隊メンバー

地魚で作ったたらしあげ

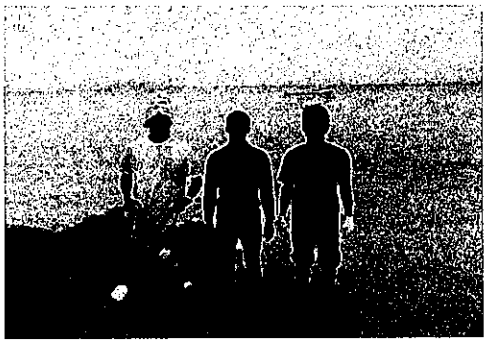
たらしあげ作り体験教室

定置網漁業の説明

ヒメジャコの試験放流作業



世界海垣（インカチ）サミットでの発表



長崎五島視察研修